

2013. 4. 28 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2013年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

Ⅶ. ローマ書における聖化

(1) 恵みが満ちあふれる

テキスト：

「律法がはいつて来たのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わる所には、恵みも満ち溢れました。それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠の命を得させるためなのです。」
(ローマ 5：20-21)

■ ローマ書の背景と目的

- ・ ローマ帝国の首都には、異邦人クリスチャンと幾許かのユダヤ人クリスチャンが教会を形成していたが、存続のための戦いがあり、更に異邦人とユダヤ人との確執も存在していた。
- ・ パウロは、ローマ訪問の前に、律法との関わりと言う角度から福音の本質を解き明かす書簡を送ろうとした。福音は、律法を覆すのではなく、(律法の真髓が「恵みの契約」であるゆえに) 律法を確立する。

■ ローマ書における聖化神学

1-4 章の信仰義認の教理を受け継いで、5-8 章は、聖化の教理を扱う。5 章は義認と恵みの関係、6 章は聖化の個人的経験、7-8 章は罪との戦いとそれを乗り越える福音の力を扱っている。

■恵みとは：受ける価値のないものに与えられる無代価の賜物のことである。

■恵みは福音において「溢れるほど」に注がれる

- ①恵みしか道がない：律法の下にいたユダヤ人も、外にいた異邦人も等しく罪人であり、裁きの下にある(3：23-24)。救いは恵みによるしかない。
- ②贖いの恵み：恵みは、キリストの贖いの死に表わされた。私たちが不敬虔な罪人であった時、キリストは私たちのために死なれた(5：6-8)。その愛は、私たちの罪を赦すだけでなく、全き救い（ホーリネスの回復）を保証する(5:10)。
- ③信仰は恵みへの唯一の応答：神の恵みは私たちの側での信仰への応答として注がれる。それ以外の道は、効果がないだけでなく、恵みの豊かさを減殺してしまう(4：5、14)。
- ④神の愛が注がれる：聖霊の満たしによって私たちに注がれる神の愛は、神を愛する心、律法を喜んで守る力を与える(5：5)。
- ⑤解放力としての恵み：キリストが人類の代表としてみ父に従った時、解放力としての恵みが与えられ、その結果、「罪の増し加わるところに、恵みも満ち溢れた」(5:20)。罪に対抗する恵み（ホーリネス）が注入された。罪意識の大きさは恵みの大きさを示す手段となる。
- ⑥恵みの曲解は危険：「恵み」を罪の奨励や容認への口実としてはいけない(6：1-2)。恵みは聖なる生活の原動力と捉えるべきである(6：12-19)。